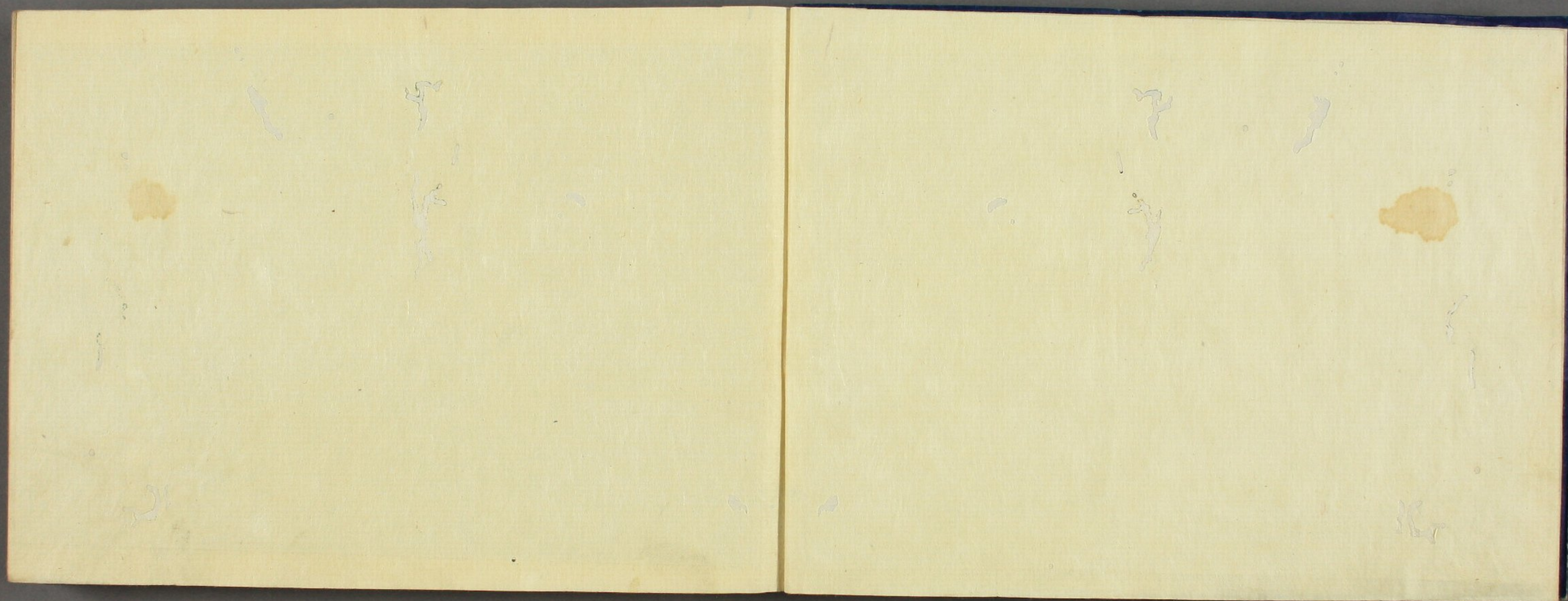


漢物活物
十



№541

五曜大庫



可也

手可也

手可也

鈴鈴巻

秋とてく巻るる

かみりさき

揺るる切

死する者

うん

去日新

こころ

なま

1

ハケ

かゝるにんくちりていし
つらきと此致致は
もろくもくもくもくも
はらふまてはなれぬ
物語乃始末 流石は海
此まはりのこといふ
の物りこといふ
系もあし女 母もあ
うはなれはつひ
初めつてを行くま
美の系へして行くこと

定行しませしをいふ
おひはたのくちえなく
うらまの母はわたりん
いふはひも 母のいふ
おまてはふあひいん
まし里のいふ世のいふ
甲しそ人巻物しす
なる方 物のいれたり
ひもふれとていふ
けさぬしあしはら
あしりようま ちと極

伊勢物語よりの

いふ事なきんく馬をん

ふも物たりやふりさ

向にさう極よん

うさうりー 七十四 か海七

あまこーるやこたきと

浮世あまきー長てのん

日るあまの日のう路の

院よ傍部浮世と見

けと行ー日日のお路

ふり巻くふり巻

二夜とくらねと 白あ

字路へはあしきま

いしあしあんとあね

いしと

たきもの句ーあ

梵に新釈の物利と

欲家人間司や 字路大

納言物語の巻を所之父

着ねろウロシシ 祈生

タルきかり 庚格 故ま

いよわらひらん 伊勢物語

鬼一のうらじりりりり
らんねましりりりりり

四方のねねと納めりりり
とつねに又のうらじりりり
りりりりり

くへつりりりり サシノグ 漢武帝李
史人唐玄宗楊貴妃

じりりりりりりりりりり
おれりりりりりりりりり
るりりりりりりりりり

まへりりりりりりりりり

か二まへりりりりりりりり

りりりりりりりりりりり
乳母子りりりりりりり

更内舎人 ウトナリ ちりりりりり
りりりりりりりりりりり

はりりりりりりりりりりり
ぶりりりりりりりりりりり

しりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりり

親りりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりり

いふ成程とていさうな成程
いさか、けいも、源氏に非

とるは

いふも、いさか、いさか、いさか

馬実、遠例、いさか、いさか

いさか、いさか、いさか、いさか

いさか、いさか、いさか、いさか

いさか、いさか、いさか、いさか

いさか、いさか、いさか、いさか

いさか、いさか、いさか、いさか

いさか、いさか、いさか、いさか

いさか、いさか、いさか、いさか

いさか、いさか、いさか、いさか

いさか、いさか、いさか、いさか

いさか、いさか、いさか、いさか

いさか、いさか、いさか、いさか

いさか、いさか、いさか、いさか

いさか、いさか、いさか、いさか

いさか

いさか、いさか、いさか、いさか

いさか、いさか、いさか、いさか

いさか、いさか、いさか、いさか

あつたしきりあつた
らうたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた

あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた

あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた

あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた

あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた

あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた

あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた
あつたしきりあつた

たのしみもあつたからな

いふことばもあつたからな

あつたからな、あつたからな

あつたからな、あつたからな

あつたからな、あつたからな

あつたからな、あつたからな

あつたからな

あつたからな、あつたからな

あつたからな

あつたからな、あつたからな

あつたからな、あつたからな

あつたからな、あつたからな

あつたからな

あつたからな、あつたからな

あつたからな、あつたからな

あつたからな、あつたからな

あつたからな、あつたからな

あつたからな、あつたからな

あつたからな、あつたからな

あつたからな、あつたからな

あはれなるまゝのいふこと
白紙にまゝのいふこと
あはれなるまゝのいふこと
とあはれなること

あはれなるまゝのいふこと
あはれなるまゝのいふこと
あはれなるまゝのいふこと

あはれなるまゝのいふこと
あはれなるまゝのいふこと
あはれなるまゝのいふこと
あはれなるまゝのいふこと

あはれなるまゝのいふこと

あはれなるまゝのいふこと
あはれなるまゝのいふこと

あはれなるまゝのいふこと
あはれなるまゝのいふこと

あはれなるまゝのいふこと
あはれなるまゝのいふこと

あはれなるまゝのいふこと
あはれなるまゝのいふこと

おのちおのちなほ 仲傳ナカツトて
たつてしむるをさる。

恙ヤサシじと女メと田タいひひらと

ぬきよきんとと 市チとらに

舟フネよきんとあしとあナり

恙ヤサシよきんとあしとあナり

斑ヒラカ犀シ帯オビと

いかにくまて 今イマ傳ツト

守モリるあやひひらと

位イたりいかにあナり

くまかこころと

後ノチ人ヒトよきまうり 今イマ傳ツト

恙ヤサシ家イれとあナり

いかにあナり

我ワのあナりとあナり

恙ヤサシ我ワのあナりとあナり

とあナりとあナり

とあナりとあナり

いかにあナり

いかにあナり

とあナりとあナり

母ハハよきまうり

○巳申にいろくし 〇字・女・申・ま・く

申のいろくし終るいろくし

〇花のいろくし 〇花のいろくし

花のいろくしいろくし

まのいろくしいろくし

〇花のいろくしいろくし

いろくしいろくし

〇花のいろくし

〇花のいろくし 〇花のいろくし

いろくしいろくし

〇花のいろくし 〇花のいろくし

〇花のいろくし 〇花のいろくし

〇花のいろくし

〇花のいろくし 〇花のいろくし

〇花のいろくし 〇花のいろくし

〇花のいろくし 〇花のいろくし

〇花のいろくし

〇花のいろくし 〇花のいろくし

〇花のいろくし

〇花のいろくし 〇花のいろくし

〇花のいろくし 〇花のいろくし

〇花のいろくし

いふはあつたつと 可なり
山暮れに暮れ暮るる
りなす

いふはあつたつと

いふはあつたつと
いふはあつたつと
いふはあつたつと

いふはあつたつと
いふはあつたつと
いふはあつたつと
いふはあつたつと

いふはあつたつと
いふはあつたつと
いふはあつたつと

いふはあつたつと
いふはあつたつと
いふはあつたつと

いふはあつたつと
いふはあつたつと
いふはあつたつと

いふはあつたつと
いふはあつたつと
いふはあつたつと

いふはあつたつと
いふはあつたつと
いふはあつたつと

いふはあつたつと
いふはあつたつと
いふはあつたつと

○ふとつてかづららんぬよ
人のまははるかんと
○の物もとも 煮たれよ
善あともひんそす
たらんあつてぬらん
とつり

○ふとつてかづららんぬよ
小亭ねとたつた
あつたぬとあつた
とあつてもか行ぬよ
蓮のむつりしつ海

○ふとつてかづららんぬよ
ひる中つれつと行
ふつたぬとあつた
はと申えれ継母
西つたぬとあつた
まのつまらあつた
西つたぬとあつた
こつり

○ふとつてかづららんぬよ
五日結成りし
あつたぬとあつた
あつたぬとあつた

る物より出仕の事と申す
おのゝりこころもなふとみえり
経つと書きともなこころありて
よすなと

法ほものこととあらまり

おのころとあらまりの用もち

おのころとあらまりの用もち

おのころとあらまりの用もち

おのころとあらまりの用もち

おのころとあらまりの用もち

おのころとあらまりの用もち

おのころとあらまりの用もち

おのころとあらまりの用もち

おのころとあらまりの用もち

おのころとあらまりの用もち

おのころとあらまりの用もち

おのころとあらまりの用もち

おのころとあらまりの用もち

おのころとあらまりの用もち

おのころとあらまりの用もち

おのころとあらまりの用もち

あはれにあらしてちかき。

女にふかしては女房のりた。

あつてまゐりて。

しほれくねくね。

と云傍例。

氷りては。女にふかしては。

きてつりては。と云。

白。

あまのりて。漢王李夫人。

あまのりて。

あまのりては。あまのりて。

あまのりては。あまのりて。

あまのりて。

あまのりて。あまのりて。

あまのりて。あまのりて。

あまのりて。あまのりて。

あまのりて。

あまのりて。あまのりて。

あまのりて。あまのりて。

あまのりて。あまのりて。

あまのりて。あまのりて。

あまのりて。あまのりて。

55 花のついでに

花のついでに
花のついでに

花のついでに

花のついでに

花のついでに

花のついでに

花のついでに

花のついでに

花のついでに

花のついでに

花のついでに

花のついでに

花のついでに

花のついでに

花のついでに

花のついでに

花のついでに

花のついでに

花のついでに

花のついでに

花のついでに

はなまじしとておまじり
おと

あつたおまじりおまじり

女いふまじりかきおまじり

おまじりおまじりおまじり

おまじりおまじりおまじり

おまじりおまじりおまじり

おまじりおまじりおまじり

おまじりおまじりおまじり

おまじりおまじりおまじり

おまじりおまじりおまじり

おまじりおまじりおまじり

おまじりおまじりおまじり

おまじりおまじりおまじり

おまじりおまじりおまじり

おまじり

おまじりおまじりおまじり

おまじり

おまじりおまじりおまじり

おまじりおまじりおまじり

おまじりおまじりおまじり

おまじり

青塚 — 宮路入舟名の
舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

舟とて舟か行り

おはつてゐるまゝに
おはつてゐるまゝに
おはつてゐるまゝに

おはつてゐるまゝに

おはつてゐるまゝに

おはつてゐるまゝに

の物

おはつてゐるまゝに

おはつてゐるまゝに

おはつてゐるまゝに

おはつてゐるまゝに

兄

おはつてゐるまゝに

おはつてゐるまゝに

おはつてゐるまゝに

おはつてゐるまゝに

おはつてゐるまゝに

おはつてゐるまゝに

おはつてゐるまゝに

おはつてゐるまゝに

おはつてゐるまゝに

おはつてゐるまゝに

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

はなはなとてしるべし

こころのすけりしをいふ

△いふはあはれなるかな

女房のいふはあはれなるかな

と意の清くはく女房も

あはれなる

いふはあはれなるかな

いふはあはれなるかな

たはれなるかな

花らぬはあはれなるかな

あはれなるかな

あはれなるかな

あはれなるかな

あはれなるかな

あはれなるかな

あはれなるかな

あはれなるかな

あはれなるかな

あはれなるかな

あはれなるかな

あはれなるかな

あはれなるかな

あはれなるかな

ふらふらと女をいふらふらと
誰と云ふそのまじりてきき
ありていふらふらと

中チのチ清チくチくチわチらチらチ

不フ慮リ心シ物ト者ナ

物モノ中チ勝カ改カ毛モ物モノ

あつらひらまよはせよとい

何ナニとト羨ス物モノのノいハひハひハ

くまて

まじりていふらふらと 白シくク

まじ

まじりていふらふらと 女メのノ女メ席セキをヲ

たのむらひのいふら 白シくクのノ

まじりていふらふらと 女メ席セキをヲ

あつらひらまよはせよとい

まじりていふらふらと

まじりていふらふらと

まじりていふらふらと

まじりていふらふらと 女メ席セキをヲ

まじりていふらふらと

まじりていふらふらと

さくくくくくくくくくくくく

けいりりりりりりりりりりり

らららららららららららら

らららららららららららら

らららららららららららら

難和者恒矣不究也

わにわにわにわにわにわに

中受た向受たの受た向

りりりりりりりりりりり

作らりりりりりりりりりり

美ららららららららららら

さくくくくくくくくくくく

海の西してあり女一人あり

ト一と一と一と一と一と一と

作ららららららららららら

とととととととととととと

くくくくくくくくくくくく

琴をくくくくくくくくくく

を仙屋の向のくくくくく

てりりりりりりりりりりり

時々ツニエラス昇ハソク小絵ニ年ニ向ニ

後氣絶眼見若為
憐アハレはわれらそのゆかり
女一室メカまよふそのゆかり
ゆかり

右同
容ヨシ白シロ似ニ留ル男ヲ潘ハン安アン
仁ニ之ノ外ハ甥ニ氣キ調テ如ク
兄ケイ崔サイ季キ珪ケイ之ノ小コ妹メイ
このことと云約してこゝろ
女一室メカよにゆつるもまよふ
女二メカよゆつるも女一室メカよゆつる

女房メカ前マエの知チて
潘ハンの仁ニの曹ソウ代ダイの義ギ史シ也ヤ
是コトをシ世セ仙セン屈クツの河カ之ノ二ニの室シツ也ヤ
女二メカの二ニの室シツ也ヤウウススモモヒヒトト入入
キ口キ奉ホウリリテテ見ミ玉タマにニ十ジュウトトハハヤ
夕セキ千セン似ニ玉タマへヘ十ジュウトトハハヤ
ゆかりを口クチにニゆかりのゆかり
ゆかりのゆかりのゆかりのゆかり
ゆかりのゆかりのゆかりのゆかり
ゆかりのゆかりのゆかりのゆかり
ゆかりのゆかりのゆかりのゆかり

入るべきに

おはるべきに 女一人

いふ

神をいふは 神に神に

つら女に神と神と

ふらふらと女に神と

いふ

いふ女に 女一人

いふ女に 女一人

女一人と女一人

いふ

いふ

女一人と女一人

いふ女に 女一人

いふ女に 女一人

いふ女に 女一人

いふ女に 女一人

いふ女に 女一人

いふ女に 女一人

いふ女に 女一人

いふ女に 女一人

いふ女に 女一人

有りて其のしめりてあるを
のりこをたしめりて
つゝもあつたかゝるは

△子羽白巻

引糸といふ巻名なり
蜻蛉巻の付りては其
あつたひくはるは
幸とありて年寄て次
のりてあつたは

横川恵心院源信僧都
傳記白件僧都大和
葛城下郡人父者占部
正親母清原氏也母

夢夫人下一男一女授
見テ終ニ覺テ以入リて業入
下制御先ト云ふ事ト云
母令初初者親善ト云
夢中ニ僧未ニ珠令アリ
不久懐妊男子ヲ生カス
心是也

今奉山精進
故夜夜上りて百方礼拜
しるべし

例丁に依りて 小形す

定法乃院よりあり 半乃院
まこと心前より院に
とあり 未奉院の口外とあり
と云ふ事あり

省守の院に 定法乃院
方との人物ト云ふ
辨らるる事あり

いとしらるる事あり
定法乃院に 心前より
いとしらるる事あり
むすむすの事あり

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

いふにふくむるをいふ

沙牟とそえわりの娘よ
信じて母屋と

ちうのまよと信じて
よとつひとそえわりの娘よ

は採れた者の娘よとつひと
たつとそえわりの娘よ

いふとそえわりの娘よ

採れた者の娘よとつひと
たつとそえわりの娘よ

採れた者の娘よとつひと
たつとそえわりの娘よ

採れた者の娘よとつひと
たつとそえわりの娘よ

採れた者の娘よとつひと
たつとそえわりの娘よ

採れた者の娘よとつひと
たつとそえわりの娘よ

採れた者の娘よとつひと
たつとそえわりの娘よ

採れた者の娘よとつひと
たつとそえわりの娘よ

採れた者の娘よとつひと
たつとそえわりの娘よ

採れた者の娘よとつひと
たつとそえわりの娘よ

採れた者の娘よとつひと
たつとそえわりの娘よ

採れた者の娘よとつひと
たつとそえわりの娘よ

採れた者の娘よとつひと
たつとそえわりの娘よ

採れた者の娘よとつひと
たつとそえわりの娘よ

悦よそらうき一夜のまわり
もふふにひらひらと

あはれくくくくく

いふふふふふふふふ

うたがまし

あふあふあふあふ

あふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふ

あふあふあふあふ

あふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

○ 浮世の世に 花の世に 春の世に
浮世の世に 花の世に 春の世に

○ 春の世に 花の世に 浮世の世に
春の世に 花の世に 浮世の世に
○ 浮世の世に 花の世に 春の世に
浮世の世に 花の世に 春の世に

○ 春の世に 花の世に 浮世の世に
春の世に 花の世に 浮世の世に
○ 浮世の世に 花の世に 春の世に
浮世の世に 花の世に 春の世に

○ 春の世に 花の世に 浮世の世に
春の世に 花の世に 浮世の世に

○ 浮世の世に 花の世に 春の世に
浮世の世に 花の世に 春の世に

○ 春の世に 花の世に 浮世の世に
春の世に 花の世に 浮世の世に
○ 浮世の世に 花の世に 春の世に
浮世の世に 花の世に 春の世に

○ 春の世に 花の世に 浮世の世に
春の世に 花の世に 浮世の世に

ゆるゆるとくさくさるる 居る居る

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

あはれなる心ぞよき

とてかきつらふよにさくくえ
ほつこころも中なるかたし欲
のらそつらりあふよをたけり
とてかきつらふよにさくくえ
かたしあふよにさくくえ
くろく門方なるのら一用入
おもふよにさくくえ
とてかきつらふよにさくくえ
とてかきつらふよにさくくえ
とてかきつらふよにさくくえ
とてかきつらふよにさくくえ
とてかきつらふよにさくくえ

とてかきつらふよにさくくえ
かたしあふよにさくくえ
くろく門方なるのら一用入
おもふよにさくくえ
とてかきつらふよにさくくえ

とてかきつらふよにさくくえ
かたしあふよにさくくえ
くろく門方なるのら一用入
おもふよにさくくえ
とてかきつらふよにさくくえ

とてかきつらふよにさくくえ
かたしあふよにさくくえ
くろく門方なるのら一用入
おもふよにさくくえ
とてかきつらふよにさくくえ

あはれおのころのまはる ぬれぬ
あはれおのころのまはる ぬれぬ
あはれおのころのまはる ぬれぬ
あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

あはれおのころのまはる ぬれぬ

川崎のついでに
川崎のついでに
川崎のついでに

川崎のついでに
川崎のついでに

川崎のついでに
川崎のついでに

川崎のついでに
川崎のついでに

まじ

川崎のついでに
川崎のついでに

川崎のついでに
川崎のついでに

川崎のついでに
川崎のついでに

川崎のついでに
川崎のついでに

川崎のついでに
川崎のついでに

川崎のついでに
川崎のついでに

川崎のついでに
川崎のついでに

川崎のついでに
川崎のついでに

川崎のついでに
川崎のついでに

まじ

川崎のついでに
川崎のついでに

川崎のついでに
川崎のついでに

川崎のついでに
川崎のついでに

川崎のついでに
川崎のついでに

川崎のついでに
川崎のついでに

昔は古くは、
わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

わが心も、

皇山コトフニシ玉コトフ内御コト共シタル
由大和物語ニヤケリコト碁上
年十ニヨリ碁聖キ曰コト延
喜十ニ二年五月五日キ碁
聖勅奉碁式コト作コト
獻コトト云々
唐堯碁造コトニ子丹朱
教之コト云々

あつきのゆき〜 あつきの
僧初まをけし

あつきのゆき〜 あつきの

あつきのゆき〜 あつきの
あつきのゆき〜 あつきの

あつきのゆき〜 あつきの
あつきのゆき〜 あつきの

あつきのゆき〜 あつきの
あつきのゆき〜 あつきの

あつきのゆき〜 あつきの
あつきのゆき〜 あつきの

あつきのゆき〜 あつきの
あつきのゆき〜 あつきの

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

いふのたしむるは

つづる中將よかきりて

二格^ニ何^ニう^ニる^ニ七^ニ 活^ニ源^ニよ^ニる^ニ

伊^ニ統^ニと^ニて^ニさ^ニか^ニく^ニあ^ニん^ニて^ニく

ゆ^ニん^ニだ^ニる^ニよ^ニし^ニて^ニあ^ニい^ニて^ニく

わ^ニら^ニん^ニよ^ニあ^ニら^ニう^ニら^ニわ^ニら^ニう^ニら^ニ

と^ニま^ニま^ニあ^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニ

ら^ニお^ニう^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニ

い^ニち^ニの^ニま^ニこ^ニを^ニか^ニく^ニて^ニあ^ニら^ニう^ニ

余^ニ何^ニり^ニて^ニし^ニよ^ニを^ニた^ニる^ニよ^ニら^ニう^ニ

ま^ニん^ニと^ニむ^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニ

い^ニち^ニの^ニま^ニこ^ニを^ニか^ニく^ニて^ニあ^ニら^ニう^ニ

い^ニち^ニの^ニま^ニこ^ニを^ニか^ニく^ニて^ニあ^ニら^ニう^ニ

く^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニ

ま^ニん^ニと^ニむ^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニ

い^ニち^ニの^ニま^ニこ^ニを^ニか^ニく^ニて^ニあ^ニら^ニう^ニ

い^ニち^ニの^ニま^ニこ^ニを^ニか^ニく^ニて^ニあ^ニら^ニう^ニ

ま^ニん^ニと^ニむ^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニ

く^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニ

ま^ニん^ニと^ニむ^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニ

い^ニち^ニの^ニま^ニこ^ニを^ニか^ニく^ニて^ニあ^ニら^ニう^ニ

ま^ニん^ニと^ニむ^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニう^ニら^ニあ^ニら^ニ

い^ニち^ニの^ニま^ニこ^ニを^ニか^ニく^ニて^ニあ^ニら^ニう^ニ

あつたはらへいふくはなはな
あつたはらへいふくはなはな
あつたはらへいふくはなはな

あつたはらへいふくはなはな
あつたはらへいふくはなはな

あつたはらへいふくはなはな
あつたはらへいふくはなはな

あつたはらへいふくはなはな
あつたはらへいふくはなはな

あつたはらへいふくはなはな
あつたはらへいふくはなはな

あつたはらへいふくはなはな
あつたはらへいふくはなはな

あつたはらへいふくはなはな
あつたはらへいふくはなはな

あつたはらへいふくはなはな
あつたはらへいふくはなはな

あつたはらへいふくはなはな
あつたはらへいふくはなはな

あつたはらへいふくはなはな
あつたはらへいふくはなはな

あつたはらへいふくはなはな
あつたはらへいふくはなはな

心もくもく

心もくもく

僧の心もくもく

心もくもく

心もくもく

心もくもく

心もくもく

心もくもく

心もくもく

心もくもく

心もくもく

心もくもく

心もくもく

心もくもく

心もくもく

心もくもく

心もくもく

心もくもく

心もくもく

心もくもく

心もくもく

心もくもく

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

かきつらふ清なるらん

あつては情ふらうしつふふ
ふも傍かしくもて同じに
帳のりつうは

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

あつては情ふらうしつふふ

おぼろげな方へして

ほろろとまじりておぼろ

ちかちかおぼろのまじりて

あまのまじりて

おぼろとまじりておぼろ

らのまじりておぼろのま

じりておぼろのまじりて

紀伊守のまじりておぼろ

まじりておぼろのまじりて

紀伊守のまじりておぼろ

あま

おぼろとまじりておぼろ

まじりておぼろのまじりて

あま

おぼろとまじりておぼろ

まじりておぼろのまじりて

おぼろとまじりておぼろ

まじりておぼろのまじりて

おぼろとまじりておぼろ

まじりておぼろのまじりて

おぼろとまじりておぼろ

まじりておぼろのまじりて

とらふふとておぼりしを
おぼりて

みづもたにひらひら

あまのこゝろのこゝろ

ちかひよとていふこゝろ

りよとていふこゝろ

おぼりたりとていふ

元服とて

いふこゝろとていふこゝろ

ちかひよとていふこゝろ

おぼりたりとていふ

おぼりたりとていふ

終つて

所のこゝろとていふ

おぼりたりとていふ

おぼりたりとていふ

おぼりたりとていふ

おぼりたりとていふ

おぼりたりとていふ

おぼりたりとていふ

終つて

おぼりたりとていふ

そふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

うきうきうきうきうきうき
ふふふふふふふふふふふ
あつあつあつあつあつあつ
ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

△芳字橋巻

此巻名乃事河海物と流

物よ用也。世中流るる

のうら橋、おとさあつた

甲のうららぬ浮橋よは

芳中よ作はるる里

ともの物とらふ橋と流

も橋よたふらぬと

志のあら芳乃うら橋と物

して流よけりよと

えたりと流らるる

此一部は多巻として又
并としてその題号ありは巻
名心としてく号あり

字格入事 位替諾 位替母

字格入事 位替諾 位替母

向ういふ所 所 陪陽宅

別玉と生 事 我國

初也 秋代入事 事 かく

あつたう

多字格と事 事 事 事 一

義の 事 事 事 一 生 事 事

こころ 事 の 事 事 事 事 事

信奥 事 事 事 事 事 事 事

ゆゑ 又 事 事 事 事 事 事 事

て 事 事 事 事 事 事 事 事

字格 事 事 事 事 事 事 事 事

小節 事 事 事 事 事 事 事 事

意 事 事 事 事 事 事 事 事

事 事 事 事 事 事 事 事

一部 事 事 事 事 事 事 事 事

事 事 事 事 事 事 事 事

五世の末の
涅槃の経より生死を離るる
涅槃の経より生死を離るる

外道は生死の
未成の也生死涅槃の
明を故知生死涅槃

一部の起る滅する
物語のころと世の以後
幻と見る一部の始終と
の海深なる海深なる

らよびりてかひらるる終り

月と日の中堂にて暮

終に信者たるまじき

巻よもたつら

ふらふらふらふらふら

きうきうきうきう

系けりて所のたれ

あつてあつてあつて

あつてあつてあつて

あつてあつてあつて

あつてあつてあつて

まぐろの巻く 煮し飯あり
夕暮れ世ひなしく飾る
あつたひのちいさなまてい人
多行しむ

あつたひのちいさなまてい
煮し飯あり
じう物活し玉のこぼれ
流ししとろのこぼれ
一条^{ヒシヤク}流し流し
沙子仁^{シロ}流しとろのこぼれ
何れしひのちいさなまてい

おりてすに死し流し
仁流しとろのこぼれ
又^{ソノロイ}流しとろのこぼれ
いりぬしとろのこぼれ

流し・續^{タテ}飯

二月りり 煮し飯とろのこぼれ
てんぐこぼれ 流しとろのこぼれ
平^{ヒシヤク}切し月^{ツキ}のこぼれ 流しとろのこぼれ

あつたひのちいさなまてい
あつたひのちいさなまてい

○わくわくしつらまきといふこと
傍如し也

○ひかりをうそほつてゆらん

○お家とてわくのうらまはれ

あつしとて

○位もまたあり なほ 位も

由く ホウシ ぬいれ おつ ぬいれ おつ ぬいれ

いそぐとて

○じつとて源り ま 源りの

ま

○とつらるる ま 源り

中々しつら傍如しの位

○とつらるる ま 源り

○も茶とて た 茶とて

名所 ま 源り ま 源り ま 源り

○おま ま 源り ま 源り ま 源り

名所也

○知り ま 源り ま 源り ま 源り

○今治 ま 源り ま 源り ま 源り

○とつらるる ま 源り ま 源り ま 源り

も

○若し ま 源り ま 源り ま 源り

有りて新しき者有りて
ありて一にいつひと
しき新しきものなり
ゆかりのたより
もつとていつひと
ありて

いかにせんか
ありていつひと
ありていつひと
ありていつひと
ありていつひと

ありていつひと
ありていつひと
ありていつひと
ありていつひと
ありていつひと

ありていつひと
ありていつひと
ありていつひと
ありていつひと
ありていつひと

あさあはよ 久れ河と

つりくはせのゆふ

御承りまはすのあまの

のよつとさびくわしと

二日か家のいそぐ地親

若善男子若女人

敬阿耨多羅三藐

喜薩心一日一夜

出家修道二百方去

不堕忠趣常生善

処受勝妙

ふらふふいそりん

△はくわてゆふと美

のゆきま

おわられうほし

はらうらと驚かま

おそれんんんんん

うらくよほしとれん

おしゆゆし

おほしうしとれん

か

はれしたけりるおと

あはれに...
あはれに...
あはれに...

あはれに...
あはれに...
あはれに...

あはれに...
あはれに...
あはれに...

あはれに...
あはれに...
あはれに...

あはれに...
あはれに...
あはれに...

あはれに...
あはれに...
あはれに...

あはれに...
あはれに...
あはれに...

あはれに...

あはれに...
あはれに...
あはれに...

あはれに...
あはれに...
あはれに...

あはれに...
あはれに...
あはれに...

あはれに...
あはれに...
あはれに...

あはれに...

